

Motif ~Love human and draw human

Y. Noguchi



「ディパンによる女」油彩,1930

モチーフ

～人を愛し、人を描く～

令和5年度後期展 2023.10.24^火 》 2024.4.21^日

野口彌太郎記念美術館

長崎市平野町7-8平和会館1階 TEL 095-843-8209

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】月曜日（祝日をのぞく）

【入館料】一般100円、小中学生50円（団体15名以上一般80円、小中学生30円）

※市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

モチーフ ～人を愛し、人を描く～

Motif ~ Love human and draw human

風景・風物を描く画家として知られる野口彌太郎ですが、彼は人物を描くことも好んだといわれています。

野口は、人物を単なる実写の対象として描くのではなく、愛情深いまなざしをもって対象の本質を捉え、見るものに人間への愛を感じさせる人物画を数多く制作しました。

令和5年度後期展では、「モチーフ～人を愛し、人を描く～」と題し、初渡欧時代から晩年に至るまで、国内外の滞在先で出会った人物や、人々の活動の瞬間を題材にした作品を主に紹介します。自己の感動を込めて迷いなく描く線と力強く伸びやかな筆触からは、野口の本質を捉え描き切る力とともに、モチーフに真摯に向き合う姿勢を垣間見ることができます。

野口が人物（モチーフ）に向けた、温かく、愛情深いまなざしを感じていただければ幸いです。



「化粧をする女」水彩、不詳



「裏町A」墨彩、1947



「裸婦二人」油彩、1961

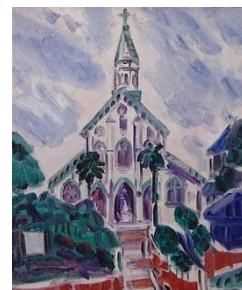


「婦人像」油彩、不詳

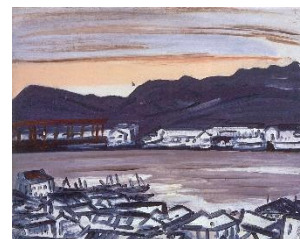
名品展 ～長崎の魅力を描く～

野口は終戦後、両親が戻った諫早の家を訪ねるとともに、長崎によく出かけたといえます。戦後、海外渡航が難しいなか、当時の長崎は、外国人居留地の面影を残す洋館が多く建ち並び、国内にあって異国情緒漂う街でした。周囲を山々に囲まれ変化に飛んだ表情を見せる港町・長崎に、野口は魅了され、毎年のように絵を描きに足を運びました。

今回は、長崎・諫早を題材にした作品のなかから、長崎の町や歴史的な建造物などをモチーフにした油彩やデッサンなどの作品をご紹介します。野口が愛した長崎をどうぞお楽しみください。



「大浦天主堂」油彩、1970



「長崎の港」油彩、1959



野口彌太郎 (1899～1976)

日本的なフォーヴィズムの画風を確立した洋画家。独立美術協会所属。1973年『那智の滝』芸術選奨文部大臣賞（美術部門）受賞。

野口彌太郎記念美術館

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
 【休館日】月曜日（祝日をのぞく）
 【入館料】一般100円、小中学生50円
 （団体15名以上一般80円、小中学生30円）
 ※市内の小中学生及び付き添いの方は、土曜日無料

交通アクセス

長崎駅から
 路面電車▶ 長崎駅電停から赤迫行き
 （1番系統・3番系統）乗車、原爆資料館電停下車、徒歩3分
 バス▶ 住吉方面のバスに乗車し、浜口町バス停にて下車。徒歩3分

※見学所要時間：約30分
 原爆資料館隣。原爆資料館からは館内通路で移動できます。

